



はじめに

兵庫県立人と自然の博物館（ひとはく）は、2024年に開館32年目を迎えました。私が五代目の館長に就任してから1年が経ち、改めて本館が果たしてきた役割と、その重みを深く実感しています。歴代館長や関係者の皆さまが築き上げてこられた「ひとはく」の価値を受け継ぎ、さらに発展させるため、今後も全力で取り組んでまいります。

2024年度は、2022年度に策定した「ひとはく将来ビジョン2032」に基づく取組を本格化させた一年でした。目指すべき博物館像の実現に向け、生涯学習支援、人材育成、多様な主体との連携、研究・シンクタンク活動、標本資料の収集・活用など、幅広い活動を展開しました。

館主催の一般セミナーなどのプログラム数は昨年度よりわずかに減少しましたが、コロナ禍以前の水準を概ね維持できるようになっています。地域研究員の登録者数は目標を上回り、アウトリーチ事業を含む連携事業も高い水準を保ちました。展示では、「クモ展—多様な8本脚たちの世界—」「価値の手直し展～アップサイクルから見つめるモノと人の豊かな関係～」など多彩な企画展に加え、14件のミニ企画展を開催し、生物や自然、環境・文化を多角的に捉え直す機会を提供しました。また、誰もが安心して学び、体験できる博物館を目指し、館内設備の改善も進めています。研究・シンクタンク活動では、停滞していた「県政課題論文・著作・研究発表数」の目標を達成することができました。

2025年度は、これまでの成果と課題を踏まえ、さらなる前進を図ります。博物館が地域や社会とともに成長し、未来に向けた価値を創造し続ける場であるために、引き続き、多くの皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。

これからも、人と自然をつなぐ「ひとはく」の活動に、どうぞご期待ください。

兵庫県立人と自然の博物館
館長 村上 哲明